



## CD「ひろの童謡集～福島県広野町で生まれた新しい童謡～」

### 日本童謡賞・特別賞を受賞



2010年童謡文化賞受賞者の皆さん

が制作した「ひろの童謡集～福島県広野町で生まれた新しい童謡～」が日本童謡賞・特別賞を受賞。湯山昭日本童謡協会会長より山田町長に賞状と記念の盾が手渡されました。

広野町は“童謡であふれる、心豊かなまちづくり”を目指して、1994年（平成6年）より「ひろの童謡まつり」を毎年開催しています。これまでに24曲の新しい童謡が生まれ、2009年（平成21年）11月に24曲をCDに制作しました。

CD「ひろの童謡集」に収められた24曲は、いずれも世代を越えて愛唱される優しく美しい童謡で、CD「ひろの童謡集」の制作と発行は、童謡文化における貴重な足跡となるものであり、極めて高く評価されました。

日本童謡賞は社団法人日本童謡協会が子どもの歌の振興を図るために制定したもので、賞の贈呈式が毎年行われ、今年で40回目を迎えました。



## 広野中学校剣道部

### 東北大会と全国大会に向けて

中体連の剣道県大会が7月23、24日、南相馬市スポーツセンターで行われました。男子個人戦では、昨年11月の新人戦でも優勝した遠藤太郎選手が優勝し、みごと県中学ナンバーワンに輝きました。また、女子団体戦では準優勝という成績を残し、創部初めての東北大会出場を決めました。

遠藤選手は、新人戦後に調子を崩して、今回の地区予選では8位でしたが、「自分に厳しく、相手にも厳しく」を心掛けて猛練習した結果、今回の成績を残しました。

個人戦の前に行われた男子団体戦では、残念ながら予選敗退してしまいました。このことについて遠藤選手は、「みんなと一緒に団体戦で、全国大会に出場したかった」と悔しさをにじませていました。しかし、「全国大会では、どのような試合がしたいですか」と聞くと、「福島県の名を背負って、それに恥じない戦いをしたい」と力強く語ってくれました。

広野中学校剣道部のみなさんには、東北、全国大会での活躍が期待されます。



町長室で決意を述べた広野中学校剣道部女子選手と遠藤選手

遠藤太郎選手

## 6 生活環境の充実

障がいのある人が住み慣れた地域で安心して生活できる環境は、すべての町民にとって安全、便利で、快適な環境にも通じることから、障がいのある人に対して配慮することは特別なことではありません。障がい者が感じる物理的、社会的、制度的、心理的なあらゆる障壁を取り除くことにより、あらゆる人にとって暮らしやすい空間やまちを創出していくことが求められています。

### 今後の取り組み

(1) 建築物などのバリアフリー化の推進	(2) 居住環境の充実	(3) 移動交通手段の充実	(4) 防災、防犯対策の推進
施策項目	施策項目	施策項目	施策項目
① 公共施設のバリアフリー化推進 ② 民間施設のバリアフリー化促進	① 住宅改造の促進 ② 障がい者向けの公営住宅の確保 ③ グループホームの整備促進	① 公共交通機関の利便性の確保 ② 交通施設の整備促進 ③ 町内巡回バスの充実 ④ 自動車の改造の支援 ⑤ ガイドヘルパーの確保と活用 ⑥ 歩行空間の整備	① 災害の知識および対処法についての啓発、広報 ② 緊急通報体制の整備、充実 ③ 地域防災ネットワークの確立 ④ 避難場所の確保 ⑤ 自主防災組織の設置支援 ⑥ 防犯対策の充実 ⑦ 地域安全運動の推進 ⑧ 緊急通報システムの整備

## 計画の推進

障がい者に関わる施策分野は福祉のみならず、保健、医療、教育、就労など多岐にわたっているため、庁内関係各部門との連携を図りながら、計画を推進していきます。また、障がい者施策については、就労をはじめとして国や県の制度に関わる分野も多いことから、これら国、県の関係各機関との連携を図るとともに、本町の実情に即した取り組みを積極的に推進する上で必要な側面については、国や県への要請や働きかけを行います。また、近隣市町村とも、障がい者同士の交流、施設の広域利用などさまざまな面について連携を図っています。

障がい者の地域での生活を支援していくためには、障がい者の必要とするサービスのニーズを適切に把握し、それに応じていくことはもちろんですが、障がいおよび障がい者に対する地域社会の理解を得ることが非常に重要です。地域住民をはじめ、障がい者支援団体、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健協力員、医師会、福祉サービス提供事業者などとの連携を図りながら、障がい者を支える地域づくりを推進していきます。

